

## 防災からコミュニティへ—民主的な地域社会を考える—

田島康弘（鹿児島支部・地理学）

第1章、はじめに

第2章、鴨池地区の地理と防災、及び「みんサポ」

第3章、マンションコミュニティを考える

第4章、地域社会とコミュニティ、現実からのアプローチ

第5章、地域社会とコミュニティ、学問からのアプローチ

第6章、おわりに—民主的な地域社会を考える—

### 第1章、はじめに

ここ数年間、筆者は地理学徒として、(身近な) 地域のあるべき姿やそこにおいて自分がなすべきことや出来ることについて模索してきた。これは(身近な) 地域における地理教育の側からの生涯教育の模索でもあり、8月に福島で行われた地理教育研究会の大会では「鴨池地区の地理と防災」の部分の報告を行っている。

「身近な地域」に注目するのは、これが現代日本社会を反映していると同時に、これが現代日本社会を作り上げている一構成要素でもあると考えるからである。ここを変えることができれば、やがては日本社会を変えることに繋がるのではないか。

今回のテーマである民主主義について言えば、「草の根の民主主義」は私たちの目指すところであろうが、果たして現実はこうなっているであろうか。これが真に実現されるならば、今日の日本のようなことにはなっていないのではなかろうか。

以上のような関心から、今回、筆者のささやかな実践を報告し、ご批判・ご検討をいただければ幸いである。

3年ほど前から筆者は鹿児島市真砂・鴨池地区の住民とともに活動することになった。きっかけは偶然で、市が主催する防災講座に共に参加していたこの地区に住む元市職員の M 氏から、地理学徒である筆者が防災の話を依頼されたことである。

これを行ったのが2019年12月22日と2020年2月2日であった。さらに3月7日ハザードマップ作りの勉強会を開催、ここでは池田碩氏の「ハザードマップの作成と活用」(日本の科学者2019.4)を筆者が紹介する形で進められた。

その後、防災の活動と並行して「みんサポ」(みんなで地域の高齢者を支える市民サポーター)の活動が始まった。この詳細は後述する。(以上、第2章)

防災、「みんサポ」に次いで課題となってきたことが「マンションコミュニティ問題」である。これに関する勉強会である「マンション懇話会」は、初め2021年5月9日に計画されたが、コロナで延期され、8月8日に実施された。(第3章)

今日までの住民の中での活動は以上であるが、マンションがきっかけであった筆者のコミュニティへの関心は、その後一般の地域社会全体に広がることになり、これについての若干の整理を行った。(第4、

5章)

今回の報告では1)以上の諸活動の内容の報告(第2,3章)を中心とし、2)次いで、活動の中で考えたコミュニティ問題の若干の整理の紹介を行い(第4章)、3)最後に、コミュニティ問題と学問とのかかわりについて多少触れることにする(第5章)。この学問との関連はいわば中間報告である。

筆者の報告が今回のシンポジウムのテーマである「民主主義の現在と未来」を地域の現実の場で考える素材の一端にでもなれば幸いである。

## 第2章、鴨池地区の地理と防災、及び「みんなサポ」

### 1) 地理と防災

ここでは2019年12月22日と2020年2月2日に筆者が住民とともにいき、2021年8月に福島の大会でその要旨を報告した「鴨池地区の地理と防災」の話のまとめの部分を紹介する。

「地理と防災」のまとめ

- 1 真砂・鴨池地区の災害の種類とその対応
- 2 行政、科学者、と住民をめぐって
- 3 地域ごとに個性があり、それに合ったトータルデザインが求められる
- 4 災害の構造
- 5 地域力をつけよう
- 6 地域社会の主人公(主権者)に

### 2) 「みんなサポ」

「みんなサポ」とは「みんなで地域の高齢者を支える市民サポーター」という行政が中心になって行っている市民のボランティア活動である。鴨池地区では元市職員のM氏が中心となり、1年ほどの試行期間を経て、2021年1月24日、鴨池地区の活動組織「みんなサポ鴨池」が正式に発足した。

この試行期間中、筆者は3人の高齢女性の庭木の剪定を3回、正式発足後も10月末までにさらに3回行った。「みんなサポ」は行政中心の活動であり、「みんなサポ」自体の問題とともに、そもそも行政をどう捉えるかについてもいろいろと考えさせられた。

## 第3章、マンションコミュニティを考える

ここでは8月8日の「マンション懇話会」で行った筆者の報告を紹介する

- 1) マンションにコミュニティの特質
- 2) 管理組合に対する筆者の質問・要望と回答を巡って

## 第4章、地域社会とコミュニティ、現実から出発するアプローチ

ここでは、この時点(8月)で筆者が行っていたこのテーマに関する整理を紹介する。

- 1) コミュニティの良さ、長所
- 2) 現状のコミュニティの問題点
- 3) 民間の研究会の動向
- 4) あるべきコミュニティの姿は?

- ① 「つながる人・まち」(第六次鹿児島市総合計画)
- ② Think globally act locally
- ③ (全体を視野に入れた) 地域変革論としてのコミュニティ論
- ④ 防災力(行政力+地域力)の一つとしての地域力の中心
- ⑤ 対等の関係での人々の対話(中島義道(1997) <対話>のない社会)
- ⑥ 民主的な地域社会とは

## 第5章、地域社会とコミュニティ、学問からのアプローチ

最後に、筆者が関わってきたコミュニティを中心とする今回のテーマが学問の世界ではどのように扱われているか、学問とどのようにかかわっているかについて、筆者なりに整理してみた。

- 1) 地理学、社会学、教育社会学
- 2) 「身近な地域」
- 3) コミュニティとは何か(定義)
- 4) 今なぜコミュニティか
- 5) (実践的) 目標としてのコミュニティ: 地域学・地元学
- 6) 地域力とは

## 第6章、おわりに—民主的な地域社会を考える—

- 1) コミュニティとは「あるべき地域社会」のことと筆者は捉えたい(目標)
- 2) 民主主義はあるべき地域社会の一要素ではないか  
自発性・自律性、創造性 自然(環境)
- 3) 「地域の成熟化」(奥田道大) 概念に対する疑問 時代や場所によってあるべき地域の姿は無限に多様で変化するであろう。  
奥田道大(1993)『都市型社会のコミュニティ』p215)  
「(西欧型) 民主主義の押し付け」
- 4) 出番を作る人の重要性
- 5) 地域の人(未知、異質)との「対話」のしにくさにどう取り組むか  
少人数の学習会の積み重ね
- 6) 具体的行動が信頼を高める 剪定、

時間があれば: 補足

- 1) いわゆる「内発的発展」について
- 2) 「みんサポ」をめぐる諸問題について